歴史の道をゆく
the history of road
阿仁街道1

角館から大覚野峠まで

①

阿仁街道は、角館から桧木内～大覚野峠～阿仁鉱山町～米内沢を経て羽州街道の小繋に至る道で、大覚野街道とも呼ばれる。米内沢～小繋ルートとは別に藩政時代から米内沢～鷹巣～坊沢を結ぶ道もあり、明治に入って鷹巣に北秋田郡役所が置かれたことに伴い、鷹巣経由ルートが公式の阿仁街道とされた時期もあった。

大覚野峠越えの道が多くの物資や人々の通る街道となったのは江戸時代、佐竹氏が秋田入りして、阿仁鉱山の開発・経営に力を注いでからのことといわれる。

阿仁鉱山は阿仁川上流域・九両山や芝森の山麓一帯に分布する多くの金山・銀山・銅山の総称で、とりわけ銅山は、18世紀には幕府御用銅の約4割を担うという隆盛ぶりだった。その阿仁鉱山に、角館の藩庫に集積された仙北米や物資を峠越えで供給する陸送ルートとして整備されたのが、阿仁街道である。

ちなみに、阿仁鉱山で産出された鉱石（粗鉱）は阿仁川や米代川の舟運で能代に運ばれ、帰り舟に能代からの飯米を積み込んだものの、重荷を乗せての遡航は相当難儀だったらしい。

③

角館から院内川を渡って西木村へ

街道の起点は角館町中町の高札場。現在の町役場分庁舎の向かい側・北都銀行角館支店前が高札場に当り、分庁舎の隣が馬継立場だった。少し北進し横町角を右折、花場山前のT字路にぶつかって左折、山根町～細越町と進む。道筋右手の通称「お不動の清水」は、昔から旅人や地元の人々に利用された。

角館は江戸時代に佐竹北家が城代をつとめた仙北郡の中心地だった。幕府による一国一城の制で城構えは廃されたが、往時の武家屋敷群が今も建ち並ぶ景観は全国でも例がなく、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。

街道は角館高校前を通り、国道46号を横切って角館城廻村（現・田沢湖町小松）へ。この辺りの道筋は国道工事の際に失われ、城廻地区の街道筋も院内川の洪水の度に変わって、今は定かでないという。院内川には往時も橋が架かり、今の本町橋のやや西側にあったという。

角館高校前からの道の途中、左手に見える古城山は、戦国時代にこの地一帯を支配していた戸沢氏の居城・角館城跡である。城廻村も本町村も戸沢氏の小城下町で、元和6年（1620）に城山の南（今の角館市街地側）に町が移される以前は本町村が「角館」と呼ばれていたという（「本角館」）。

院内川を渡った道筋は一旦国道105号を横断し、真木口神社前で国道と重なって進む。西荒井地区で秋田内陸縦貫鉄道のガードをくぐり、すぐ左折。国道と分かれて旧道を西野～六本杉～道目木～荒町へ。六本杉地区の道筋左手には庚申塔があったが、神社の参道が西明寺駅（秋田内陸縦貫鉄道）への道になった後に移動されたと聞いた。この辺りから桧木内地区辺りまでの道筋には枝垂桜が目立ち、角館文化圏の、目に見える特徴となっている。

④

②

⑤

⑥

桧木内から大覚野峠まで

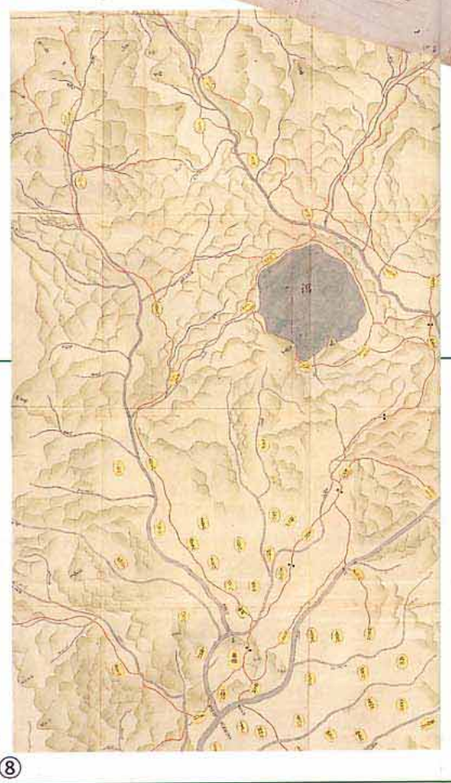
荒町の先、堂村集落には北条時頼創建と伝えられる大国主神社があり、本殿と表門は県指定有形文化財。仁王の木像も味がある。街道は国道を離れた山裾を進み、堂村の外れからほぼ国道に重なって山口に向かう。山口で旧道に右折するが、曲り角右手に文政期の高さ約3メートルの太平山碑がある。畑中・高屋を経て下桧木内地区の中心地・松葉への道筋には、江戸時代にまで溯らないにせよ、明治～昭和頃の旧街道らしい雰囲気が残る。

街道は小滝の入口付近で国道から左に分かれ、桧木内川を縫うように進む。中里地区の塞ノ神前の桂は、小正月行事「カンデッコあげ」の舞台となる。上桧木内地区の道沿いには旅館が数軒。同地区はかつて阿仁街道の宿場でもあったというが、中泊の地名もその名残だろうか。

国道は北上を続けて戸沢方面に向かうが、旧街道は桁沢橋を渡ってすぐ左手を急角度に曲がって入る。鉄道下の小さなガードをくぐり、沢沿いに進んで、今は大覚野牧場のある地を抜けると、大覚野峠に至る道だ。

アップダウンを繰り返し、尾根筋を経て峠へ。薮が茂り荒れているが道筋の形跡はほぼ残っており、地元の人が山菜採りなどで通ることがあるという。大覚野（もとの名は大学野）の地名は、享保年間に村境確定などのため一帯を踏査した藩家老・今宮大学（義透）に因むという。峠（582メートル）は、今も仙北郡西木村と北秋田郡阿仁町の境である。

⑦


⑧

この地図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の1/200,000地勢図を複製したものです。
（承認番号　平12東複第218号）

①角館武家屋敷
芦名氏・佐竹北家に仕えた家臣たちの屋敷群。河原田家、青柳家、石黒家などがある。

②城廻村（現田沢湖町小松）の光景
大阪東岳が明治10年頃に描いた『田沢湯元道中画報』の中の一枚。本町橋が見える。

③門屋城跡（西木村小山田）
陸奥国雫石から入部した戸沢氏の居城跡。戸沢氏はその後、角館に移り角館城を作る。

④木版大般若経（真山寺蔵）
戸沢氏が寄進したとされる全550巻の経巻。古記録によると応安から応永の頃の出版。

⑤大国主神社（西木村西明寺堂村）
北条時頼が弘長2年（1262）創建と伝えられる。表門、本殿とも近世中期の仏堂の特色を残す。県指定有形文化財。

⑥カンデッコあげ（西木村下桧木内字中里）
旧暦1月15日の夜、地区の塞ノ神堂前の桂の木を舞台に繰り広げられる奇祭。豊作や縁結びなどの祈りを込めた無数のカンデッコ（鍬台）を枝にほうり投げ引っ掛ける。

⑦大覚野牧場（旧大覚野峠）
街道は、この写真の中央部を通過していたというが、もう道は消えてしまっている。

⑧角館土形絵図（部分）（秋田県公文書館蔵）
現在の仙北郡北東部にあたる北浦地方の絵図。桧木内川沿いに阿仁街道が見える。